

第2回 藤沢市民会館等再整備基本構想策定検討委員会 議事録(要旨)

日 時：2021年(令和3年)7月31日(土)午後3時から午後5時
(午後3時から午後3時30分までは現地視察)

場 所：藤沢市民会館 第2展示集会ホール

委員出席者：川村委員長、間瀬委員、中島委員、長田委員、野口委員、黒川委員、飯田委員、
宮原委員、神原委員、奈良委員

オブザーバー：藤沢商工会議所 大嶋常務理事、企画政策課 三ツ井参事、市民相談情報課 藤岡課長、
総合市民図書館 市川館長、青少年課 高橋課長、公園課 張ヶ谷課長、下水道総務課 近
藤参事

事務局出席者：文化芸術課 井澤課長、齊藤課長補佐、上原上級主査、吉原主幹
企画政策課 岡主幹、小泉課長補佐、石丸上級主査
八千代エンジニアリング株式会社(齋藤、竹田、小川)

傍 聴 者：8名

議 題：(1) 本事業にかかる基本事項
(2) 市民ワークショップの報告
(3) 本事業の基本理念について
(4) ホール事例の紹介
(5) その他

配 布 資 料：席次表

現地視察資料

次第

資料1：本事業にかかる基本事項

資料2：第1回 令和3年度藤沢市民会館等再整備ワークショップ【結果報告】

資料3：本事業の基本理念について

資料4：ホール事例の紹介

■議事要旨

(1) 本事業にかかる基本事項

- ・事務局から、資料1「本事業にかかる基本事項」の説明。

(2) 市民ワークショップの報告

- ・事務局から、資料2「第1回 令和3年度藤沢市民会館等再整備ワークショップ【結果報告】」の説明。

川村委員長	議題(1)と(2)のご説明内容について、ご質問等があればお願いします。
飯田委員	資料1の5ページ目に文化・情報・交流施設とありますが、情報機能の位置付けというのはどのようなものでしょうか
事務局	具体的な位置付けはありません。総合的に見れば図書館も生涯学習施設でありつつ、情報の集積というところでは位置付けられると思います。これが情報施設であるという位置付けはないのですが、今後、そういったことも加味して計画することになります。
黒川委員	初回のワークショップに参加したのですが、今回の検討委員会とワークショップで出された意見をどう整理していくのかという点について事務局でお考えがあるようでしたら教えてください。
事務局	今回のワークショップでいただいた意見につきましては、このように検討委員会でご報告をさせていただいています。本日議題の3つ目で基本理念などの考え方をまとめていただきますが、その際に出てきた意見を汲んでいただければと考えています。
川村委員長	資料1の8ページ目で津波災害の図が示されていますが、大正型関東地震津波の浸水範囲にこの地域は入っているのでしょうか。
事務局	今回の敷地は津波浸水想定区域に含まれていません。
長田委員	都市部で一番怖いのは最近多い内水浸水ですが、対応策は市民会館の再整備に関わる内容にも入ってくるのでしょうか。これを踏まえた施設の構想を考えていらっしゃるのかをお伺いしたい。
事務局	内水の浸水対策としては、今回、課題として挙げている浸水対策施設の整備が該当すると考えます。雨水貯留浸透施設や雨水貯留管の整備について、今回の事業として行うか別事業になるかこれから検討になりますが、このエリアの中で整備をしていく必要があるものとして検討を進めています。
飯田委員	エリアだけではなく、その周辺も含めた土地への対策という認識でよろしいでしょうか。

事務局	そのとおりです。内水対策の範囲をブロックで分けており、ブロック内での対策を行うこととしています。
事務局	先ほどの7ページの洪水についてですが、4月か5月くらいに、国、県から津波の際に境川の遡上により溢れるという想定が発表されていました。これについては次回、確認してご報告します。

(3) 本事業の基本理念について

- ・事務局から、資料3「本事業の基本理念について」の説明。

事務局	少し補足させていただきます。右側の部分は意見等のまとめとして記載しており、基本理念に繋がると考えるものを整理しています。この項目について、箇条書きの言葉以外にも意見をいただき、その中から基本理念に繋がる言葉を導き出していきたいと考えています。
川村委員長	この部分は大変重要な部分で、この事業の基本理念を皆で共有していく、きちんと整理していくことが大切です。資料3の右側は大変わかりやすくそのため視点、観点が整理されているようなので、これで良いのか付け足すものがあるのかということも含めて皆さんで共有できる基本理念の整理を進めていきたいので、ご議論をよろしくお願いします。
長田委員	<p>右側の部分はとてもよくまとまっていますが、具体的な部分はまだだと思えます。新しく市民会館ができるときに新しいプランができると思うのですが、どのプランになっても「郷土愛あふれる藤沢」というのは、非常に大きなコンセプトだと思えます。</p> <p>昨今、藤沢、辻堂が注目されており、先日も辻堂がテレビで取り上げられていました。転入してきた人から「藤沢って良いまち」だと言われていることもあるので、藤沢生まれの住民にとっては、もっと藤沢を知ってほしいです。</p> <p>市がどれくらい文化的な財産をお持ちなのか具体的に把握してはいませんが、例えば、辻堂に浮世絵館があります。ここを知っている人は少ないです。浮世絵自体が美術的な価値があるというよりも、歴史的価値、藤沢のまちそのものを知るという面が大きいと聞いています。辻堂にはそういったものがありますが、藤沢には無いのであれば、市民ギャラリーの一角に浮世絵館みたいなものをつくるのはいかがでしょうか。</p> <p>常設展示場は歴史的なものが展示されています。そういったものとは別の意味で、藤沢市が持っている収蔵品を入れていく、美術館というまでではありませんが、藤沢をより知ってもらうような施設があっても良いと思います。辻堂にあるから藤沢にはいらぬということではなく、前向きに検討してほしいです。</p>
中島委員	大変よくまとまった資料であると思いますが、上位計画やワークショップ意

	<p>見からのまとめが右側にあり、1点目で周辺環境を生かした拠点となっていますが、奥田公園の緑は周辺ではなく、今回の核となる部分だと思います。施設のことを考えたワークショップの場合は周辺になるかと思いますが、今回はエリアについてであるため、まとめ方が違うのではと思いました。オープンスペースとしての機能というか、施設の中の機能というよりは、エリア全体が緑に溢れていて公園のようになっている、そのような拠点になってほしいということであると思いますので、その辺りのニュアンスが大事であると思います。</p> <p>また、奥田公園はそれなりに人がいますが、一番気になっていることは市民会館の前に広場的な空間があります。ここはイベント時に使用されていますが、日常的に人が休憩するなど集まっている印象はありません。エリアとして目指すこととして、目的を持って市民会館に来るというだけではなく、「オープンスペースの中に市民会館がある」という逆転するような考え方が必要と思いました。市民会館とその周りではなくて、エリアの中に市民会館があると考えていただきたいです。色々な事例もあると思いますので、考えていきたいと思いました。</p>
黒川委員	<p>私もこの資料についてよくできていると思います。ただし、一昨年のワークショップに参加した中で感じたことは、これからの事業の理念として一方的なサービスの提供とは違い、市民が自ら参加し、自主的に活動していく展開が必要になってくると思いました。特に今は昔のような地域で取り組む「祭り」といったようなものが減っていく中で、自らが企画して実践していく活動が地域から減っていくと、文化についても提供型のものに頼るようになっていかないと危惧しています。</p> <p>文化芸術というのは市民意識を醸成していく意味が大きいと思います。この社会を自分たちがつくっている、あるいは市民としてそこに参画し責任を持っていく、そういうあり方を理念に盛り込んでいくことも必要ではないかと思えます。単に良い場所、行くと楽しいというだけではなくて、運営に関しても責任を持ち合い、市民相互の関係性をつくっていけるような理念も盛り込んでいかなくてはいいでしょうか。</p>
川村委員長	<p>大変貴重な意見であると思います。</p> <p>その他ありますか。</p>
飯田委員	<p>現在感じていることとして、憩いの場など居場所が求められていることがあります。藤沢駅のペDESTリアンデッキに芝生ができましたが、そこができたことで、ある時から人が集まってきた、公の場というイメージができてきたと感じています。人流があるところにできたということもあるかと思いますが、せっかく広い緑がある場所なので、同じようにその場に他の人がいるということを感じることや、公の場という感覚が感じられることも必要であると思いました。</p>

野口委員	<p>確かに北口の芝生広場は良い雰囲気です。あのような感じのものが市民会館にできると良いかと思います。例えば、高校生のダンスの練習が順番にできるスペースをつくと、野外ステージ的で面白いと思います。市民参加型のスペースができたなら良いと思いました。</p>
川村委員長	<p>参加型、おっしゃるとおりだと思います。</p>
間瀬委員	<p>基本理念についてどのように議論していくかということだと思いますが、抜けていると感じたのは、市民会館は建物のことではなくて、文化を振興するための機関であるということ、これは確か基本法でも謳っていたと思います。その観点から言うと、拠点としての施設をつくるという視点も入れた方がよいと思いました。また、バリアフリーで利用しやすいという面は、都市の課題の解決を文化施設に求めているということであると思います。地域課題を解決するということは、高齢の方や外国人、障がいをお持ちの方と共に文化を振興するという、文化というものを素材として活用しながら解決をしていく、これが地域の文化施設の仕事だと思っています。単純にものごとできて皆さんにお見せするだけのものは、10年、20年前に終わっていると思っています。これからつくるホールは、建物ではなく、機関としてどのように立ち上げていかなければいけないかということ、基本理念としてうたってほしいと思います。</p> <p>行政としても高齢化は大変大きな課題だと思いますが、決して福祉だけの仕事ではなく、文化というツールを使って出かけてもらう、元気に働いていただくなど、こうしたことも文化施設の役割だと思っています。文化芸術の拠点として作品をつくるといったこともあります。政策課題解決のための機関として、市民会館というものが次のステップの施設であることを内外に示し、組織の問題から事業の展開についてまでアイデアを出していくことが必要だと思います。国の法律の中でも高らかに謳っていますので、是非、基本理念にもうたい上げてほしいと思います。</p>
川村委員長	<p>市民会館は単なる箱ではなく、少しオーバーに言うとそれ自体が一つの意味を持って社会の課題の解決に努めるような位置付けであるべきということは、劇場法でも言われているので、ここでもきちんと確認をしたいという主旨であると思います。間瀬委員の意見に賛成です。</p>
黒川委員	<p>間瀬委員のお話は重要だと思います。複合施設として整備する上で、その機能を最大限に引き出すためには、プラットフォームのようなところが必要だと思います。複合施設でありながら各施設がお互いに機能連携し合っていないケースは結構あります。単なる情報交換の場だけではなくて、年間計画や事業についての相互関連についてまとめていくプラットフォームの機能があると、運営自体が機能していくことはあり得ると思います。</p>
長田委員	<p>(市内では) 公民館を主体としていろいろな地域活動をしていますが、公民館がそれぞれ独立してバラバラに行っています。プラットフォーム化されてい</p>

	<p>るのか疑念を持つところでもあります。地域が異なる公民館でも、市民会館を拠点とすれば、それぞれの活動について意見を出しやすく集約しやすくなるのではと思います。</p> <p>市民会館の再整備に水を差す話にはなりますが、群馬県の県民ホール建て直しはお金がないから行わないと決めたそうです。高崎市では、おやし生け花コンクールという面白いことを行っています。お花を習っていないけど、興味ある人が集まり、道具を貸し出して勝手に使ってもらいます。質問があったら周りの先生に聞いてよいことになっています。結構人気があり、1年に1回行っていました。2回に増やしてほしいという話になっています。市民参加でもあり、今まで触れてこなかった文化に触れることができるものを提供することが、市民会館的な一つの役割であると思いました。華道協会が行っているわけではなく、市が主催で行っており、利益があるわけではないと思いますが、花屋とも協力してやっていると思います。</p> <p>文化施設というよりは市民がどのように使うか、どのように使えるか、使い勝手のよいものということが重要なコンセプトになると思います。造ってから市民に委ねるのは市民目線に立った行政サービスではないと思います。市民と常に手を取り合って、運営を含めた活動のネットワーク確保ということが市民会館の大きな目標であると思います。</p>
<p>間瀬委員</p>	<p>黒川委員がおっしゃった複合施設の中でのプラットフォームの話についてです。私は逗子市で仕事をしました。図書館と市民会館と生涯学習施設と学校の4つが口の字型に組み上げられた施設です。ここで何を行ったかという、館長会議を毎月1回行う提案をしまして、校長先生、生涯学習の施設長、図書館長、ホール館長が集まり、最初は雑談から始めました。そこから色々な繋がりが出てきて、学校教育の中にホールの文化事業が入っていくとか、図書館と連携して、例えば、何かの講演を行う際に図書館で特設コーナーをつくり、それに合った図書の展示をして司書が説明するなど、お互いに協力することができました。これは制度という訳ではなく、逗子市の各課や部などをまたいで横串を刺せたということであると思います。</p> <p>複合化を目指すということであれば、運営の中で利用者目線での利用しやすさもありますが、設置者としてもそういったことを意図するということを基本理念に謳っていただければと思います。例えば、人事異動もあるので、形として作り上げておく必要があると思います。そういうことをしなければ、利用しやすい施設にはなりにくくなってしまいます。逗子市ではできませんでしたが、エリア全体のリーダーをつくらせていただくと良いと思いました。できれば行政経験者ではなく、民間の感覚、アートマネジメントの感覚を持っている人が全体統括のトップを担うことが必要です。</p> <p>複合施設全体がリンクしながら何か行うことを担保する仕組みとして、基本理念の最後にでも入れると良いと思いました。</p>

川村委員長	大変貴重なご意見ありがとうございました。
中島委員	<p>市民会館は機関であるということからはじまりましたが、市民会館のあり方を支える空間のあり方も当然あるので、どんなに縦割り解消と言っても、日常的な交流がないと意味がありません。そういう意味では、空間的に開かれている、例えば、ホワイエのような溶け合った空間など、一体となった方がより使いやすいのではないかと、開かれ方や共有などが地区全体でできることが大事であると思いました。</p> <p>開かれた市民会館のあり方が基本理念の中に謳われると良いと思いましたし、つくるだけでなく、維持管理、マネジメントが大事なので、そこを中心に置いて欲しいです。つくったは良いが維持管理にお金がかかる、マネジメントしにくいということは一番まずいところです。マネジメントをしっかりと考えた空間、市民の創造性で柔軟に変化を受けとめられるようなエリアのあり方も考えてもよいのかもしれない。</p> <p>もう一点、ここで議論すべきかは分かりませんが、市民の意見だけでは出てこないこともあり、例えば、地球環境問題への貢献など、今後10年、20年先に向けてこれだけのエリアにどのような役割を持たせるかを考えた際に、もちろん文化・芸術が中心なのですが、基本理念の中に入れる必要があるかもしれません。もちろん市民の意見を一番置きながらですが、もしかすると足りない部分があるのかもしれないので、この委員会で補足的に出していければと感じました。</p>
川村委員長	<p>私から2点ほどお願いします。5つの丸で示すのは分かりやすく、ポイントを押さえたまとめになっていると思います。ただ、芸術文化のための拠点という視点について、さまざまなパフォーマンスの場の提供ということはもちろん当然のことですが、同時に若手を育成するという機能も重要であると思います。</p> <p>藤沢市は先見性があり、辻堂に若手の美術家育成についてアートスペースという非常に良い施設をつくっています。ただ残念ながら美術だけなので、音楽について、市民オペラを支えていく若手を育てる機能、施設を入れていただければと思います。文化芸術の拠点としてここで整理されているけれども、そのためにも不可欠な若手育成、芸術家育成の場という観点も付け加えていただければ有難いです。</p> <p>もう1点は、ここで言っても仕方がないかもしれませんが、このエリア全体の魅力を発信する際に、駅からのアクセスを何とか改善できないかと思えます。藤沢駅からこの場所へのアクセスについて、このエリアの魅力をさらに高めるためにも、エリア外の話になりますが、市として取り組んでいただきたいと考えています。例えば、札幌の市民会館は札幌駅と地下道でつながり、雨や雪でも濡れない工夫をしています。なかなか難しいかもしれませんが、この際、検討していただきたいと思いました。それがあって初めて利用のしやすい</p>

	場所になると思います。
神原委員	基本理念の中で、置き去りにされている感があるのは、南市民図書館が反映されていないのではと気になりました。生涯学習の関係で、市民の学習の機会ということでの図書館、歴史文書の文書館など学習のための施設という位置付けが基本理念の表に出てきていないと感じました。
川村委員長	確かに、図書館部分がはっきりしていないかもしれません。
飯田委員	言い残したことがあります。私が市民の立場として感じていることは、私は親の世代から入ってきたので、地域の繋がりが多くはない状況で、市民として孤立を感じることもあります。地元を感じる時は、公共施設を使用する時です。市民会館は学校のイベントや成人式で使用したため、藤沢市を感じたのを覚えています。ただ、その経験はそこで止まっているというのが正直なところです。誰もが市民として、使う瞬間から活躍していけるようなところまで、活動が広がっていく場になっていくなど、藤沢市民として活躍していくということに上手く繋がられるのではないかと思います。過去に自分が使った時に、広い視点で他の文化、他の顔が見えることがあると、もう少し地域との繋がりが感じられることになったと思い、基本理念の中にも入れられないかと発言させていただきました。
川村委員長	まだまだご意見あるかと思いますが、次回以降もご意見いただきたいと思います。

(4) ホール事例の紹介

- ・事務局から、資料4「ホール事例の紹介」の説明。

川村委員長	ありがとうございました。県内ホール、同人口規模ホール事例の紹介でした。
間瀬委員	<p>この資料は基本構想の中では必ず出てくるものだと思います。4ページに人口規模があります。比較する時に一番重要なのは、このホールで何をやらせたのかということだと思います。基本理念とイコールになるのかもしれませんが、例えば、市民オペラを考えるのであれば、おのずと規模は決まってくると思います。まずは方針を立てて規模を決めていくということを理解いただければと思います。</p> <p>ある程度絞り込んでいくと、具体的に同規模の他都市の文化施設ということでは出てくると思います。その際、大小ホールのキャパシティ、プラスどのような事業をどのような主旨でどのような形で行っていくか、事業の予算、スタッフの数も含めてデータとしてお示しいただいた方が分かりやすいかと思います。往々にして同一規模を考えて人口順で並べていくと、何のためにつくるのかという議論がどこかにいってしまうといけないので、まずは劇場、ホールと</p>

	<p>というのは何を中心に行うのか、ということになるかと思えます。キャパシティの視点で報告がありましたので、敢えて話をさせていただきました。</p>
中島委員	<p>ホール事例の紹介ということで、ホールの性格や座席の検討を行うためということですが、事例の中で、立地や他の施設との関係、オープンスペースなども、必ずしも県内だけでなくも参考になるものがあるかと思えますし、エリアという視点で事例を調べてもよいと思えます。</p>
川村委員長	<p>先ほどの話に関連すると、アクセスがどのようになっているのかという点もあります。どのようにアクセスしやすくするかという視点もあると思えます。</p>
間瀬委員	<p>ホームページで探せなかった情報についても、全国公文協にメインホールや楽屋数等も全て出ているので、参考にしていただければと思います。また、公文教の事務局に問い合わせると、もう少し詳細の情報を教えていただけたらと思います。</p>
黒川委員	<p>市民として学識経験者の知見をいただきたい観点から、前回の委員会後に間瀬委員と中島委員に勉強会の依頼をし、了承をいただきましたが、事務局からは、一部の委員だけではもったいないのではないかと話がありました。学識経験者の方の情報を聞くということだけではなくて、持っている事例、ご自身が参加された事例を紹介していただく中で、私たちが知見を広められるようなことがあると良いと思っています。せっかくそのような勉強会を行うのであれば、関心のある市民にももう少し広げていけるのではないかと思います。</p> <p>例えば、ワークショップを合同で行うこともあると思えます。事務局と相談したところ、かなりタイトな検討スケジュールなので難しいというお話でしたので、自分たちが市民の自主的な学習会というかたちで行うこともあり得ると思えますが、まずは検討委員会の皆さまと情報共有しておかなければと思いますので、本日はご紹介しました。</p>
川村委員長	<p>事務局からいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>市としては、おっしゃっていただいたとおりにかなりタイトなスケジュールであることは間違いございません。加えて、ワークショップなどで情報提供しながら進めているところですが、事務局の方でやるかやらないか、やり方を含めて一度お預かりしたいと思えます。</p>
川村委員長	<p>名前があがりましたお二人は、豊富な学識経験をお持ちですから、私自身も勉強させていただきたいと思えます。ただ、全体のスケジュールもあると思えますので、事務局で検討いただければと思います。</p> <p>その他、事務局からございますか。</p>
事務局	<p>緊急事態宣言の発出により、今後の予定がそのまま進められるか分からない状況ですが、8月には市民ワークショップにおいて、複合化した時の活動につ</p>

	<p>いての話し合いを考えています。3回目と4回目では基本構想の策定に関連付けていけるような内容で進めてまいりますので、お時間が許す範囲で、ご興味がありましたら傍聴での参加についてご検討いただければと思います。</p>
川村委員長	<p>以上で議事を終了したいと思います。進行を事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>以上を持ちまして令和3年度第2回藤沢市民会館等再整備基本構想策定委員会を終了します。今回のご意見をまとめて次回の委員会でご提案させていただきます。</p> <p>次回は9月8日水曜日、午後6時半から、市役所本庁舎8階会議室の予定です。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>

以上